

1 本年度の経営方針

- (1) 学校教育目標
 - ・看護職者としての倫理を自覚し、常に人を思いやる心を持つ人を育成する。
 - ・専門知識や技能の研鑽と幅広い教養を獲得し続ける人を育成する。
 - ・コミュニケーション能力に富み、協力し合う姿勢を持つ人を育成する。
 - ・心身共に健康で、いかなる時でも冷静で確かな判断ができる人を育成する。
 - ・折れない心を持ち、粘り強く努力できる人を育成する。
- (2) 重点目標
 - ・生徒との対話をとおした社会人基礎力の育成
 - ・学習意欲の喚起による主体的な学習態度の育成

2 学校自己評価結果 (A:十分である B:おおむね十分である C:やや不十分である D:改善を要する)

※各評価項目についての教職員による自己評価結果については、A+Bが85%以上を「A」、A+Bが70%以上を「B」、A+Bが50%以上を「C」、A+Bが50%未満を「D」とする。

領域	対象	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取り組みの適切さ	
教育活動	学習指導	学校の特徴および実態に即した教育課程を編成している。	A	・「DX加速化推進事業」の指定校としてICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた看護教育の取組を継続する。 ・生成AIの利活用について教員の研修を通して研鑽に努める。 ・生徒の意欲を高め、生徒が主体的に学ぶ授業づくりを意識する。 ・レポート等の提出物に関して、生徒によるAIの利用状況を把握した上で、評価の在り方について検討を行う。	A	A	
		学習サイクルの習慣化による基礎・基本の定着及び専門的で高度な知識・技術の習得に取り組んでいる。	B				
		評価の観点・方法を具体化し、日常評価や生徒の自己評価等による適切な評価及び、授業改善に取り組んでいる。	B				
		(看護)臨床実習により看護の実践力を身につけ、体験学習・地域活動により、生きる力・奉仕の精神を養っている。	A				
	生徒指導	教育活動全般を通じて基本的な生活習慣を育成し、学校生活の確立に努めている。	B		・「看護師」という職業に就くことを目指す子どもに必要な道徳教育を日頃の学校生活の中で実施する。 ・いじめや重大な規律違反などダメなものに対しては学校として毅然とした対応を取る。 ・TPOを踏まえた適切なコミュニケーションが取れるよう、学校生活の様々な場面を通して、継続的に指導していく。 ・「心のケア」に向けてSCの活用や個別の面談等を組織的に実施し、SOSを出しやすい環境を整える。 ・学年ごとに指導の差が出ないように、学校として統一した生徒指導を行う。言葉の意味をかみ砕いて説明し、文書等で共有する。	A	A
		社会生活を見据えた適切な言葉遣いと態度を養うとともに、自律的な倫理観及び規範意識を育成している。	C				
		生徒会活動を通じて執行部のリーダーとしての資質形成を図るとともに、委員会・部活動等を通して校訓の実現に寄与している。	A				
		各部活動に共通した生徒指導(挨拶、協調性、奉仕活動など)に取り組んでいる。	C				
		教育相談や生徒理解の取組を充実させ、いじめや不登校等の早期発見と適切な処置を対応を行っている。	A				
		自己や他者理解を深められるよう、生徒一人ひとりを支援し生きる力の育成に努めている	B				
	進路指導	キャリア教育と進路指導体制の確立を図り、5年間を見通した系統的で継続的な進路指導を行っている。	A		・看護模試やスタディーサポートのデータを教員全体で共有し、学校全体で個々の生徒をサポートする体制を行う。 ・学力が届いていない生徒に対して早期に対策を行うことで生徒の進路実現に向けて支援する。 ・5カ年の進路指導計画を提示し、体系的な指導の見える化を目指す。	A	A
		看護師国家試験対策のための学習の強化を図るとともに、各種模擬試験の実施とその結果の活用を行っている。	A				
進路に関する情報の収集と資料の整備を行い、その活用と適切な情報提供を行うとともに進路の拡大に向けた調査・研究に努めている。		B					
健康安全指導		心身共に健全な人格形成と自己実現の促進を目指し、計画的な健康増進と自己管理意識の高揚に努めている。	B	・自己管理能力が低い生徒に向けて保護者の協力の下で指導を継続する。 ・自転車に関する法改正に向け、通学途中の事故防止や自転車通学における安全管理について指導する。			
安全・防災の視点から危機管理・安全管理に対する行動の習慣化と事故防止の徹底に努めている	A						
学校運営	信頼される学校づくり	教育活動の改善・充実に向け、教育方針や教育目標を明確にし、学校評価を適切に行い地域や社会の信頼に応える看護教育を推進している。	A	・学校HPおよびNoteの充実を目指し、本校の魅力を発信し続ける。 ・リモートによる懇談会や研修会の参加率が低いため、より多くの保護者に参加してもらえるような工夫が必要である。	A	A	
		(総務)PTA行事を円滑に運営し、保護者と学校間の交流充実を図っている。	A				
学校運営	組織運営	分掌・学年及び職員間の連携を図り、協働して課題解決に取り組んでいる。	B	・建設的な意見を取り入れ、生徒の成長につながるように積極的に改善する。 ・育成を目指す生徒像を教職員で統一することで、教員間の連携を強化する。 ・外部機関との連携の充実を目指し、本校の教育活動に組み込むことができるよう検討を進める。	A	A	
		分掌・学年等との連絡調整を図り、行事計画を立案するとともに、学校行事の円滑な運営を図り、反省を生かした運営・改善に努めている。	B				
		(事務)各分掌・学年・委員会との連携を図り、教育活動を支援し、施設・設備の充実を図っている。	B				
	教職員の資質向上	公開授業や研究授業、各種研修会等への参加を充実させ、指導力向上のための授業研究実施や評価研究を推進している。	B		・校内において積極的に研修会を開催し、生成AIの利活用やICTを活用した授業実践の充実を目指す。 ・個人情報や自然災害などの部分で危機管理マニュアルを改訂する。	A	A
危機管理マニュアルの周知や連絡網機能の確認等による危機管理意識、実践力の向上を進めている。	B						
教育公務員倫理や服務規律、モラルの醸成を積極的に図っている。	A						
ご意見		・現在の生徒たちに授業内容など「伝える」より「伝わる」よう教職員の意識改革・向上が引き続き必要と感じるとともに、生徒の学力探究心や意識向上に注力されていることも感じます。今後も心身ともに大人へと成長する生徒たちであると同時に専門職として育てるため関係者(評議員も含め)で意識と情報を共有し一緒になって進めることが一層大切だと感じます。 ・よろしくお願ひ致します。					